

2024年度（令和6年度）第4回バス共創プラットフォーム 会議録（要旨）

1 日時

2025年（令和7年）2月13日（木）10：00～12：00

2 場所

福山市役所本庁舎3階 大会議室 福山市東桜町3番5号

3 出席者

(1) 委員（15名）

神田佑亮委員、鈴木春菜委員、大畑友紀委員、宇田雅英委員、神原昌弘委員、石川亮委員、吉本伸久委員、山口晃弘委員、小野裕之委員、藤原慎委員、佐野公章委員、山根直棋委員、丸石圭一委員、行迫孝治委員、難波和通委員

(2) 事務局（4名）

(3) 傍聴者（6名）

(4) 随行者（2名）

4 会議の成立

委員18名中、代理出席を含め15名出席で、委員の過半数が出席しているため、バス共創プラットフォーム設置要綱第6条第2項の規定により会議が成立。

5 内容

(1) 説明内容

- ア 路線バス運賃無料ウィークの実施結果（速報）について
- イ 来年度の取組について
- ウ ラストワンマイルの現状と課題について

(2) 意見交換

6 資料

- ・次第
- ・配席図
- ・資料1 第4回バス共創プラットフォーム資料
- ・資料2 路線バス運賃無料ウィーク チラシ（福山商業高校学生作成ページ付）

7 協議内容

(1) 開会

(2) 説明内容

- ア 路線バス運賃無料ウィークの実施結果（速報）について
- イ 来年度の取組について
- ウ ラストワンマイルの現状と課題について
 - ・ 事務局から資料1および資料2の説明を行った。

(3) 意見交換

- ア 路線バス運賃無料ウィークの実施結果（速報）について
 - ・ 今回の無料ウィークは、路線バスに乗る「きっかけ」を作ることで、普段路線バスを利用しない人の行動変容を促すことを目的としており、アプリを活用したアンケート調査により実証実験の意見、及び路線バスに対するニーズを把握した。
 - ・ 実証実験期間中に国道2号の交通量が減っているとあるが、こういった影響が出ていることは他の地域ではあまり見たことがないような結果である。
 - ・ 福山商業高校の生徒が、自主的に今回の取り組みのPRを実施してくださっていた。市民一体となって取り組みを盛り上げたという意味で、良い取り組みであったと感じる。
 - ・ 積み残しが発生する便や大幅な遅延が発生する便も非常に少なく、総合的には良い結果であったと感じる。
 - ・ 運賃無料ウィークの周知の時間が足りなかった印象があるが、1週間実施していたこともあり、日に日に利用者が増加し、問い合わせ件数も増加した。
 - ・ 広報期間をより長く確保することができれば、更なる利用者の獲得を目指せたのではと考える。今後同様のイベントを実施する際には計画的に周知できればと考えている。
 - ・ 普段あまり見られない団体客の利用などもあり、経済効果を生み出すことができたのではないかと感じている。
 - ・ 駅前での人の流れが、駅から掃き出される方向から駅へ向かう流れに変化するほどのインパクトを生み出すことができた。公共交通の組み方次第でかつての賑わいのある街に戻るのではないかと感じた。
 - ・ 普段利用が少ない平日のオフピークの利用を刺激することができたと感じているため、今後アンケート結果の分析を精緻に行うことで移動目的の把握などを実施したい。
 - ・ 利用が増えると、運転手のモチベーション向上にも繋がるといった相乗効果が生まれていた。
 - ・ 市北部では利用者の伸びは今一つであった。利用されていない理由を今後ヒアリングできればと考えている。
 - ・ 路線別利用者数については現在集計中であり、今後提示予定である。
 - ・ バス運転手の方が無料ウィークの車内アナウンスを実施しており、利用者の方の理解が深まった様子が見受けられた。
 - ・ 今回の運賃無料ウィークでバスへの抵抗感を少しでも減らすことができたのではと感じている。今後のバス利用の可能性を裏付ける結果となったと考えている。
 - ・ 今回の取り組みがバス利用のきっかけとなったか継続的なモニタリングが必要であると考える。
 - ・ 平日の利用者数も向上していたことを受け、アンケート調査を平日・休日に分けて移動目的を把握することが望ましい。
 - ・ 情報発信の工夫で鉄道とバスの相乗効果をさらに発揮することができると考える。鉄道の広域性を活かした広報やモデルコースの発信などで利用促進を図りたい。

イ 来年度の取組について

- ・ 高齢者お出かけ乗車券を、タクシーに活用している方が多いため、配布時にバス利用のチラシなどを一緒につけて配っていただければ利用促進につながるのではと考える。
- ・ 通学・通勤割引に対する行政の支援を検討いただきたい。
- ・ 運転手の免許取得費、住宅手当などの事業者負担分に対する補助金を検討いただきたい。
- ・ 定期券の対象区間をより広範にすることで、行動範囲の拡大につながると考えられる。また、定期券の形もより柔軟な形へ変更していくことも考えられる。
- ・ プラットフォームで検討している内容をアウトリーチできるような広報を実施できればと考えている。
- ・ 学生の路線バスの代替手段として電動自転車の活用が増加している。バスの運転手を目指す学生が一人でも増加してくれればと考えている。

ウ ラストワンマイルの現状と課題について

- ・ ファーストマイル（家から出る交通）をどうしていくかといった課題は福山周辺部では非常に深刻な課題である。
- ・ 国でも交通空白地の検討を行っているタイミングであり、国がリーダーとなって実施している最中である。今後のプラットフォームでも引き続き情報共有をしながら意見をいただきたい。